

## アズキの病害虫情報

### 1、病害虫発生の概要と9月のアズキの病害虫発生予報

平成19年8月13日～17日に府内10地点の小豆ほ場を防除所が調査した結果、その概要は以下のとおりでした。(別表1参照)

- (1) モザイク病の発生は、平年並、前年並であった。
- (2) 炭そ病、さび病は発生を認めず、平年並、前年並であった。
- (3) ハダニ類は発生を認めず、平年並、前年並であった。
- (4) アブラムシ類の発生は、平年並、前年比多かった。
- (5) サヤムシガ類の発生は、平年並、前年並であった。
- (6) ハスモンヨトウの発生及び白変葉とも認めず、平年並、前年並であった。

上記の巡回調査結果や1ヶ月の天気予報等を踏まえて、ハスモンヨトウ、ハダニ類についての9月の発生予報は、ともに平年並の発生を予想しています(平成19年8月23日付病害虫発生予報第7号参照)。

### 2、子実害虫

8月の巡回調査ではサヤムシガ類の発生は、平年並でしたが(別表1参照) 今後最も注意が必要な害虫の一つです。子実害虫にはアズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類等がありますが、いずれも茎や莢等を食害し、収量や子実の品質に大きな影響を及ぼします。

子実害虫の防除上の注意すべき事項は以下のとおりです。

- (1) 子実害虫は発生すると被害が大きく、また、被害を確認してからでは手遅れとなることが多いので、開花始め頃から十分な注意が必要です。
- (2) 幼虫が茎や莢内に食入すると、防除効果が劣ります。このため、幼虫ふ化時期～食入開始時期の防除が重要で、開花始めから10日間隔で2～3回防除することが大切です。

なお、**アズキノメイガは8月下旬から、マメノメイガは9月上旬から発生が始まります。**

(別表1) 8月第3半旬～第4半旬の巡回調査結果

調査項目		19年(確認ほ場率)	平年値等
モザイク病	発病株率(%)	2.6 (40.0)	7.1
	炭そ病	発病株率(%)	0.0 (0.0)
さび病	発病株率(%)	0.0 (0.0)	0.0
	ハダニ類	寄生株率(%)	0.0 (0.0)
アブラムシ類	25小葉当(匹)	0.0	0.8
	寄生株率(%)	1.2 (20.0)	1.3
サヤムシガ類	25小葉当(匹)	0.6	3.2
	寄生株率(%)	0.4 (10.0)	0.5
	25株当(匹)	0.1	0.1
	被害株率(%)	0.0 (0.0)	1.3
ハスモンヨトウ	25株当(被害数)	0.0	0.4
	寄生株率(%)	0.0 (0.0)	0.3
	25小葉当(匹)	0.0	0.6
	白変葉(箇所数/10株)	0.0 (0.0)	0.4

### 3、その他

一部ほ場でスズメガの食害が報告されています。今後も発生が懸念されますので、こまめに見回り、発生を確認したら、捕殺等で防除しましょう。